

大学院総合科目「知的財産論」の質の向上のための授業改善

森本恵美¹⁾，寺田賢治¹⁾，森賀俊広¹⁾，飯田昭夫²⁾

¹⁾ 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 ²⁾ いいだ特許事務所

1. はじめに

徳島大学大学院先端技術科学教育部では、大学院総合科目として「知的財産論」を、工学部では「知的財産の基礎と活用」を提供している。博士前期課程修了までに、学生の約8割が受講する科目である。一方で、集中講義として夏季に開講されることから、インターンシップ、学会等で受講を取り消す学生も多く、これら意欲の高い学生に機会を十分に提供できていない、受講者が毎年350人前後となる講義の管理（出席、レポート、欠席者の取り扱い）が多くなるなどの課題を有している。本稿では、2011年度に実施した学生アンケートを基に2012年度に実施したシラバス改定と大学院総合科目間の関連性を高めることで授業の質の向上を目指した取り組みについて紹介する。

2. アンケート調査結果の概要

本アンケートは、知的財産論（大学院）、知的財産の基礎と活用（学部）の受講者262名に、講義受講の理由、希望講義内容、特許検索を課題としたレポートについて回答を得た。

1) 受講理由

「集中講義であったから171名（65.27%）」が最も多く、次いで「興味があった62名（23.66%）」があげられた。集中講義形式であることは、学生にとって受講を決める動機の一つであるため、学会日程や留学などの時期を考慮して、8月末までにすべての日程を開講できるよう調整した。また、開講時期の周知方法については、掲示、学生向けの知らせシステム等を利用するとともに、大学院生から要望のあった、各学科への掲示も行った。一方で「試験がない61名（23.28%）」も上位の受講理由としてあげられたことから、出席およびレポート等の管理体制を厳しくすることとした。そのうえで、すべての講義に出席を単位取得の必須

条件とした。

2) 希望する講義内容

「企業の技術者による開発・特許取得エピソード88名（33.59%）」については、講義を担当している企業所属の講師（弁理士2名・機械系、生物化学系）にその旨を伝え、可能な限り講義に反映した。特許等の内容だけでなく、企業戦略や標準化戦略との関連を盛り込むことができた。「知的財産管理技能検定等取得講座62名（23.66%）」が2番目に多くあげられた。それを受けて①大学院共通科目として開講している「長期インターンシップ（M）」と「長期インターンシップ（D）」を履修している学生に対して行ってきた、本資格受験に関する情報提供（参考書貸与、学習方法指導）を受験希望者全員に実施、②本資格（国家資格）取得により「知的財産論」の単位認定が可能となるよう、シラバスを改訂した。これにより学会やインターンシップにより、集中講義を受講できない学生にも学習の機会とインセンティブを提供することが可能となった。

表-1 講義受講理由

受講理由(複数選択可)	該当者/全回答者
集中講義のため	171 / 65.27%
興味があった	62 / 23.66%
試験がない	61 / 23.28%
将来必要だと思った	52 / 19.85%
友人がみんな受講していた	36 / 13.74%
先輩からすすめられた	32 / 12.21%
知的財産関連の業務に就きたい	6 / 2.29%

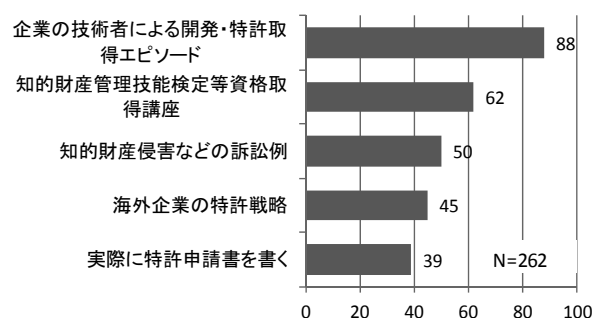


図-1 希望する講義内容（複数回答）

3) レポート課題の改訂

実際の特許がどのように活用され、社会に貢献しているのかという視点を持たせることを目的に表2の課題を出題した。

学生が、知的財産の価値を自身の専門性の中に位置づけられるよう、自身の専門や研究に関する具体的な特許や知的財産を IPDL 検索で調べ、社会との関連性について図化した上で論述させるレポートを課した。「研究に関連する技術を幅広く知ることができた 93 名 (35.50%)」、のほか、研究開発のスピードを実感したり、人の研究成果等を尊重しなければと思ったといった社会と技術のつながりの理解があった。また、就職等で興味を持っている企業名から検索が可能のため、企業研究に役立ったようである。

3. おわりに

非常勤講師によるオムニバス方式で運営されていることから地元弁理士会に連携支援を依頼している。受講者が非常に多いなど運営体制の課題については Web の活用等で、書式や提出方法、採点（評価）の標準化を進めている。

参考：

1) IPDL (Industrial Property Digital Library)

特許電子図書館 独立行政法人 工業所有権情報・研修館, <http://www.ipdl.inpit.go.jp/homepg.ipdl>

表-2 レポート課題

課題：自身の研究（専門）分野における知的財産の活用に関する具体的な例を挙げ、それが社会や産業にどのように貢献しているのか述べなさい。(A4 1250文字1枚以上2枚以内)

* 社会や市民と企業、知的財産等の関係を図化して示すこと。

* IPDL¹⁾ (Industrial Property Digital Library) による検索を原則とし、調べた知的財産については引用のルールに従う (例：特許第 1234567 号, 実用新案登録第 3107339 号, 等)

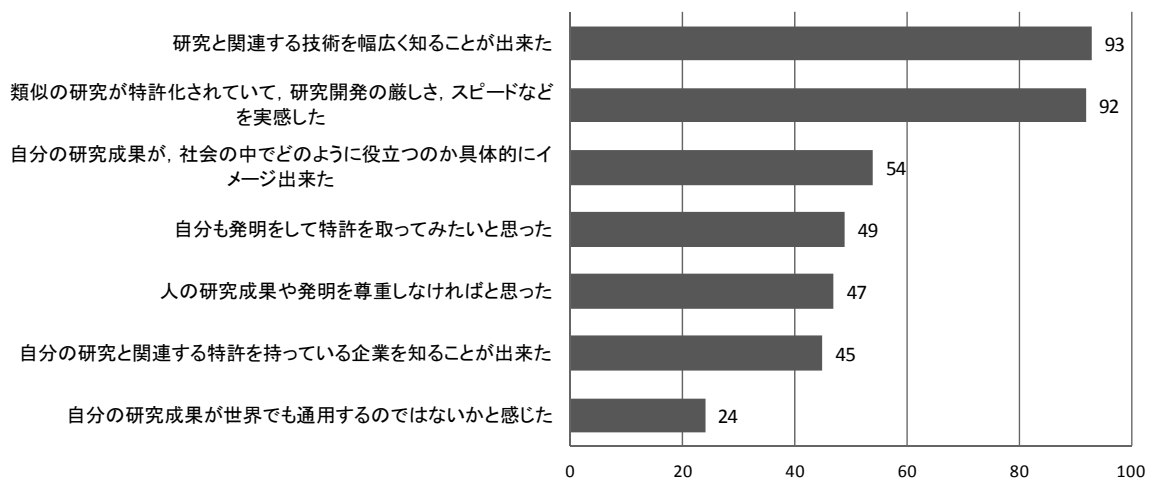


図-2 特許検索レポート課題に対する感想